

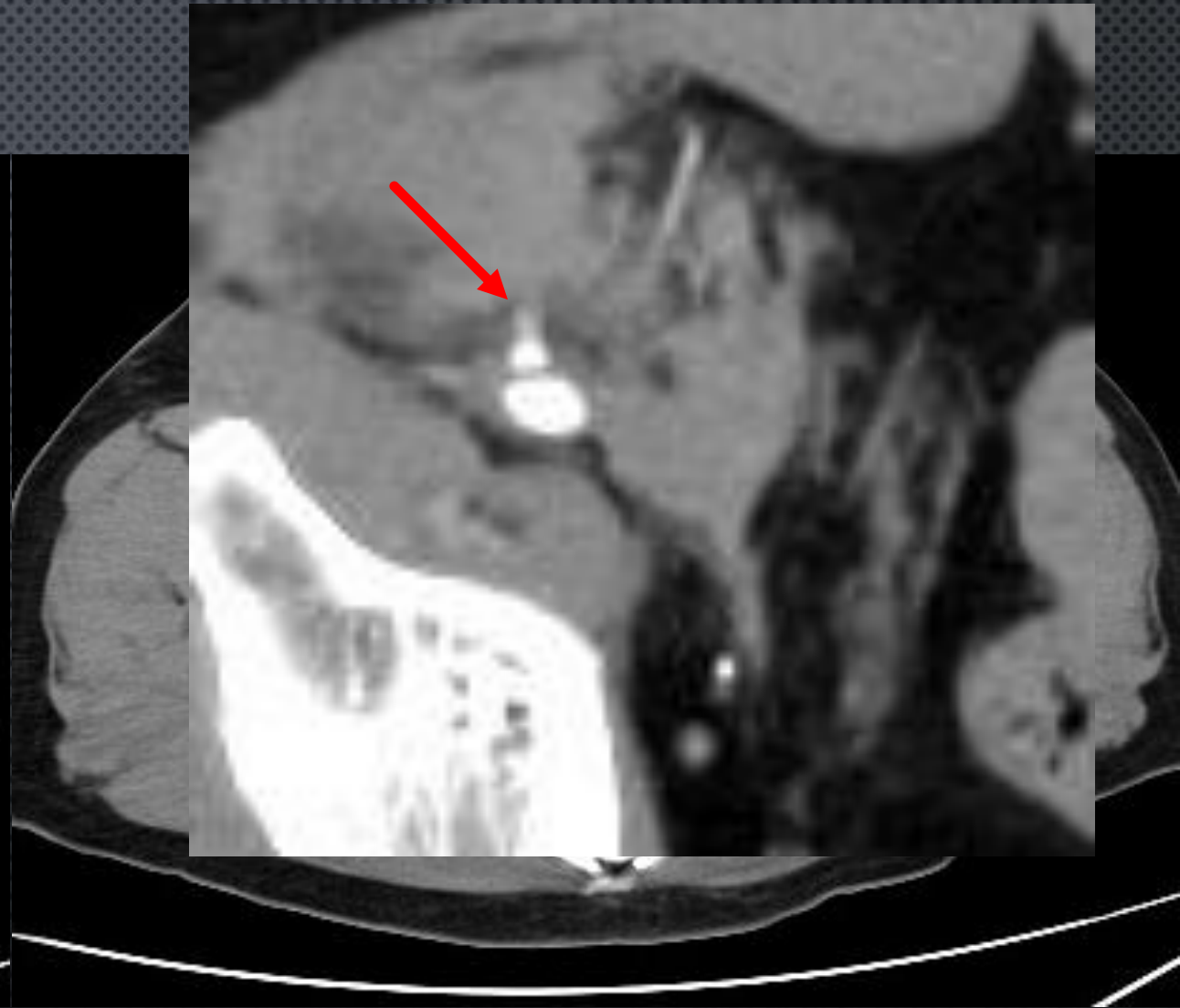
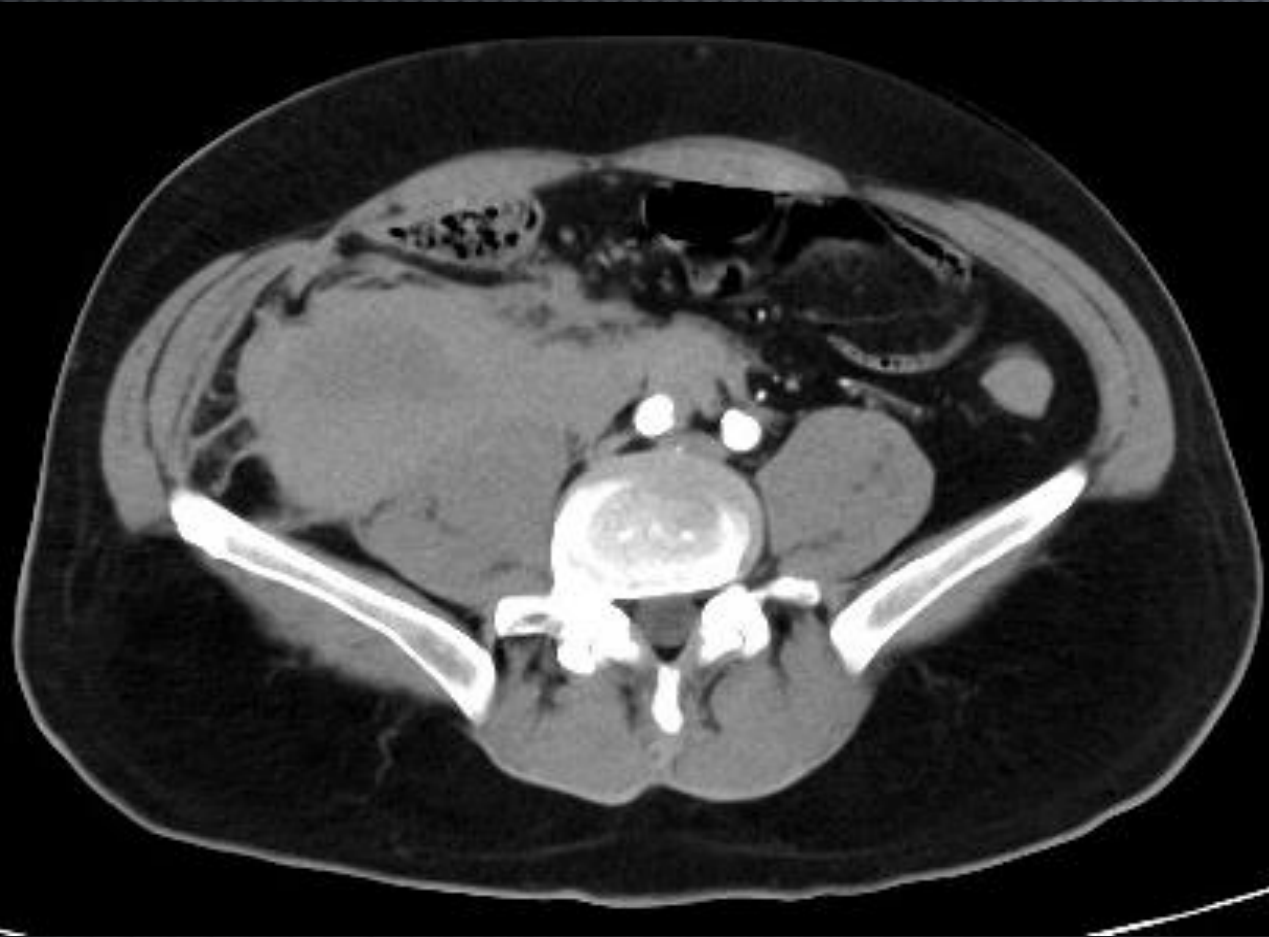
カテーテル検査後の大腿動脈仮性動脈瘤の一例

獨協医科大学病院 放射線科 三須陽介

症例：40歳代男性

現病歴

- 慢性腎臓病Stage5で透析管理中。心不全増悪のため当院心臓血管内科にて右心カテーテル＋CAG＋心筋生検が施行された。
- 帰室後から穿刺部(右鼠径)の疼痛あり、
- 同日夜間に顔面蒼白、眼球上転、間代性けいれん、血圧低下が出現。



症例：40歳代男性

- ・ 右外腸骨動脈から前方に造影剤の血管外漏出あり。
- ・ 血腫は後腹膜腔へと連続している。

→カテーテル穿刺部の仮性動脈瘤

血管造影での診断・塞栓が依頼された。





症例：40歳代男性

- ・ 左大腿動脈より4Fr. shortシーースを使用しアクセス。
- ・ 右外腸骨動脈造影にて血管外漏出と思われるstainあり。

症例：40歳代男性

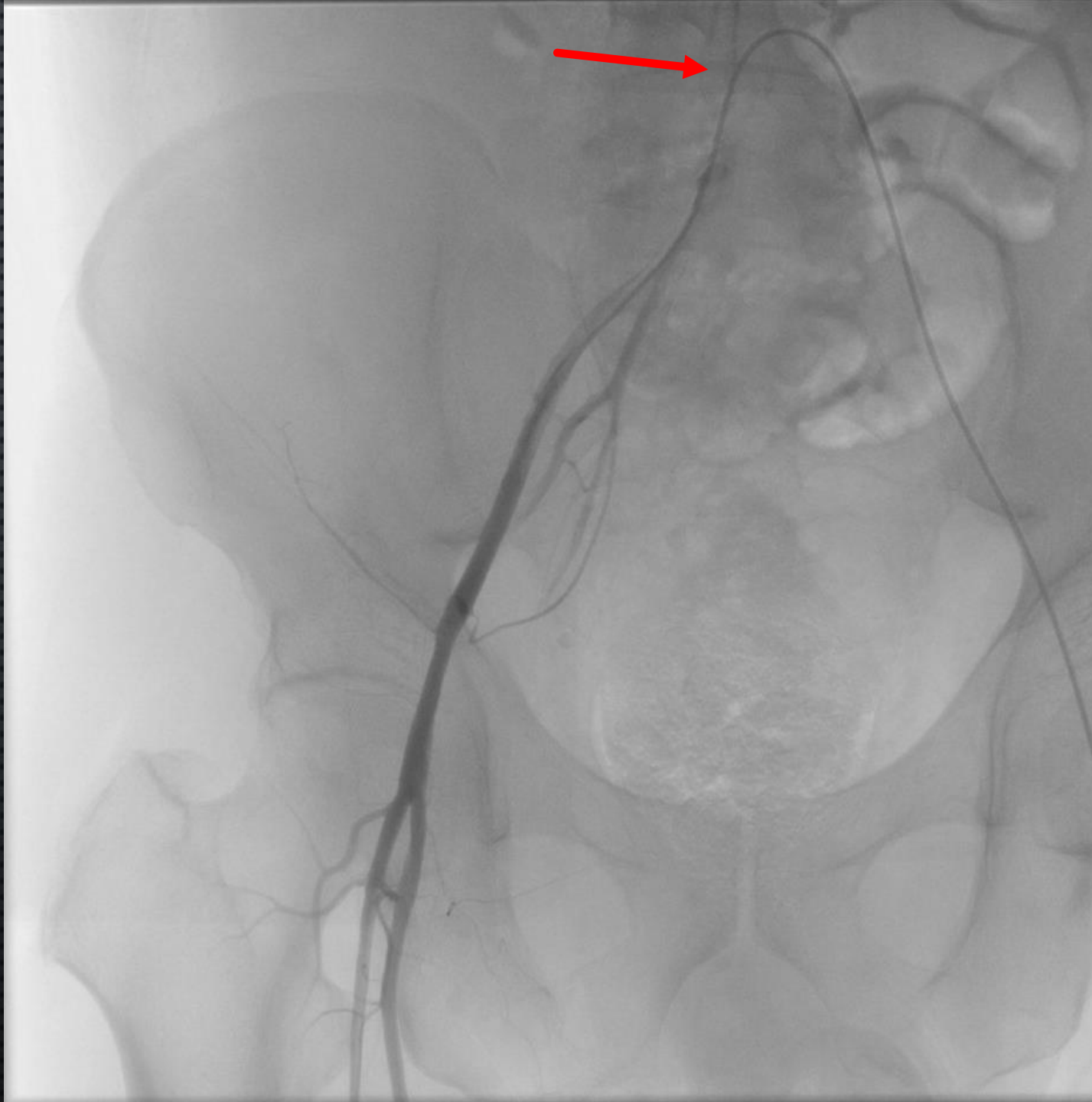
治療方針は？

- ・ 血管内から漏出部位にカテーテルを誘導し、血管外へ塞栓物質を注入
- ・ 経皮的に漏出部位近傍へ穿刺し、塞栓物質を注入
- ・ カバードステントにて出血点を覆う
- ・ バルーンカテーテルを出血点に留置し止血を図る
- ・ 圧迫止血

症例：40歳代男性

治療方針は？

- ・ 血管内から漏出部位にカテーテルを誘導し、血管外へ塞栓物質を注入
- ・ 経皮的に漏出部位近傍へ穿刺し、塞栓物質を注入
- ・ カバードステントにて出血点を覆う
- ・ バルーンカテーテルを出血点に留置し止血を図る
- ・ 圧迫止血



症例：40歳代男性

IMA型, RIM型カテーテルを使用するも大動脈分岐部の屈曲のため操作困難。

症例：40歳代男性

治療方針は？

- ・ 血管内から漏出部位にカテーテルを誘導し、血管外へ塞栓物質を注入
- ・ 経皮的に漏出部位近傍へ穿刺し、塞栓物質を注入
- ・ カバードステントにて出血点を覆う
- ・ バルーンカテーテルを出血点に留置し止血を図る
- ・ 圧迫止血

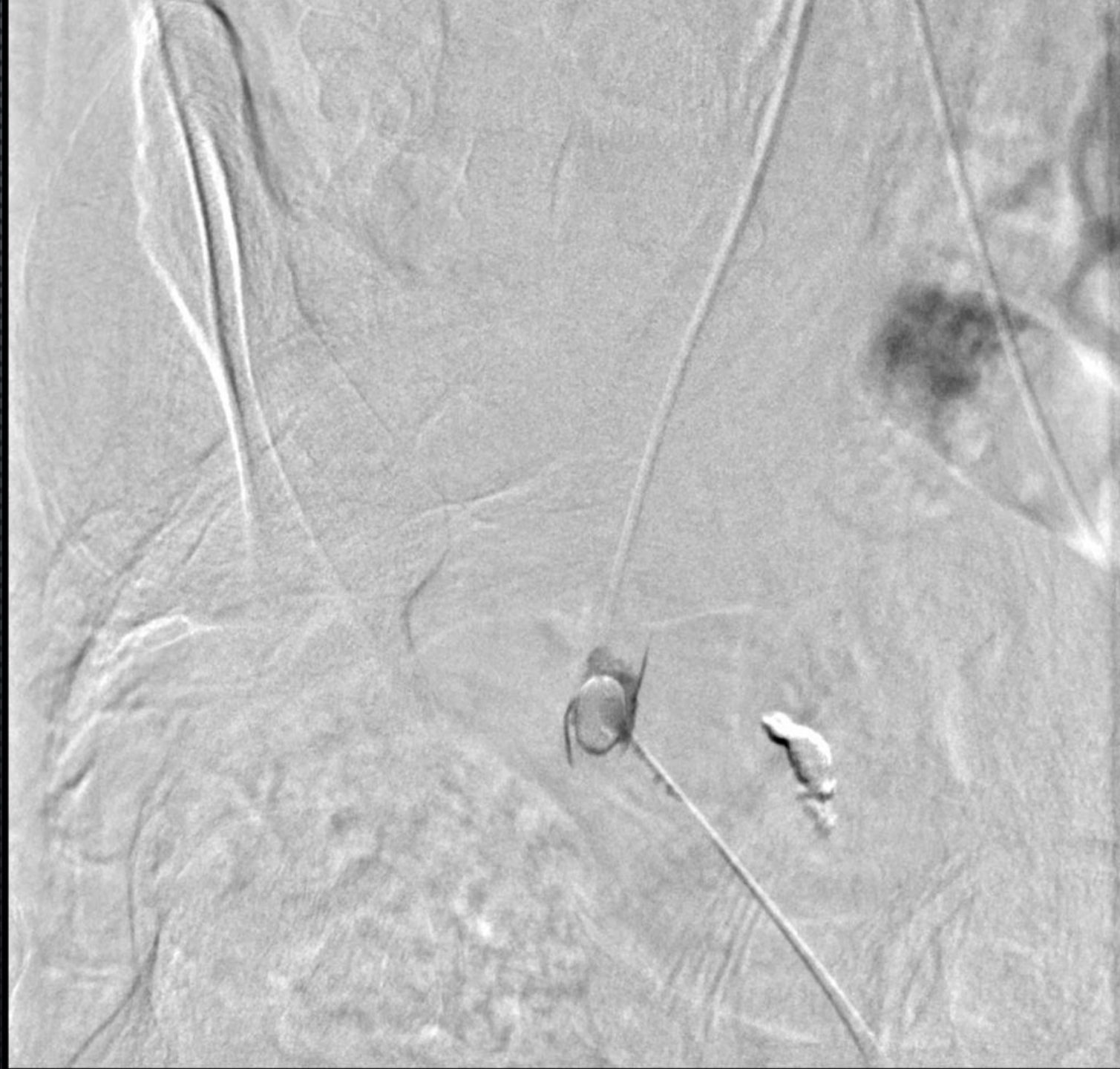
症例：40歳代男性

治療方針は？

- ・ 血管内から漏出部位にカテーテルを誘導し、血管外へ塞栓物質を注入
- ・ 経皮的に漏出部位近傍へ穿刺し、塞栓物質を注入
- ・ カバードステントにて出血点を覆う
- ・ バルーンカテーテルを出血点に留置し止血を図る
- ・ 圧迫止血

症例：40歳代男性

- ・ 塞栓物質としてNBCA(N-butyl-2-cyanoacrylate)とリピ
オドールの混和液を使用。
- ・ 穿刺のメルクマールとするため&血管外への漏出血流を抑
え塞栓物質が流れてしまわないようにするためバルーンカ
テーテル留置







結語

- ・ カテーテル検査後の大腿動脈仮性動脈瘤の症例を経験した。
- ・ IVRの治療選択肢として用手的圧迫・エコーガイド下の塞栓物質注入・バルーン閉塞下経皮的NBCA注入が考えられる。